

第5回徳山大学公立化有識者検討会議

議事要旨

日 時：令和3(2021)年2月2日(火) 15時00分から
場 所：周南市役所 4階庁議室

【会 議 次 第】

1 開 会

2 議 事

(1) 報告書の取りまとめについて

(2) 徳山大学公立化に係るメリットや課題、市や大学に対する意見等について

3 その他

4 閉会

【配布資料】

- ・ 徳山大学公立化有識者会議検討報告書（案）
- ・ 大学を生かしたまちづくりの方向性 –公立化についての市の考え方(案)–

第5回徳山大学公立化有識者検討会議 議事要旨

- 日時 令和3(2021)年2月2日(火) 15時00分から
- 場所 周南市役所4階庁議室
- 出席者
- ・委員9名
岡寺 政幸、加登田 恵子(Web参加)、佐伯 哲治、榊原 弘之、
塩塚 正康(Web参加)、椎原 伸彦、勢一 智子(Web参加)、宮本 治郎、
山本 裕一(Web参加)、(欠席：辻岡 敦)
 - ・事務局5名
副市長 佐田 邦男、企画部長 川口 洋司、企画部次長 末永 和宏、
企画課主幹 増本 俊彦、企画課公立大学推進室長 宮崎 正臣
企画課公立大学推進室長補佐 周山 健太郎
- 資料
- ・会議次第のとおり

会議議事録

1 開会

◇事務局 定刻となりましたので、ただいまから、「第5回徳山大学公立化有識者検討会議」を開催いたします。本日は、お忙しい中ご出席をいただき、誠にありがとうございます。本日の会議には、委員お一人からご欠席のご連絡がありましたので、周南会場に5名、オンラインで4名の委員さんにご参加いただいています。

本日、最終回のテーマは、「報告書の取りまとめ」「徳山大学公立化に係るメリットや課題、市や徳山大学に対する意見等」の2つとなっております。それでは、これ以降の進行につきましては、設置要綱第6条の規定により、会長が議長を務めることとなっておりますので、榊原会長、どうぞよろしく申し上げます。

2 議事：(1) 報告書の取りまとめについて

○会長 それでは規定に基づきまして議長を務めさせていただきます。今、事務局からお話しございましたように、基本的に本日が最終回ということになります。議事ですけれども、次第にございますように、まず、報告書の取りまとめについてご説明いただきます。そのあと、これまでの計4回の議論ですとか説明を踏まえ、徳山大学公立化のメリット、公立化する場合の課題、それから周南市あるいは大学への意見等を、各委員からご意見を伺って議論していくということになります。この点については、前回、私のほうからも若干述べさせていただきましたし、おそら

く事務局のほうからも委員にそういったことも連絡がいていたかと思えます。本日、議事2件ございますけれども、どちらかという2件目の議題のほうに時間をかけることができると考えております。できましたら、全委員にご意見をいただきたいと考えておりますので、のちほど、よろしく願い申し上げます。それでは、事務局のほうから、前回の資料について補足説明を行いたいということで、事務局から、まずその説明をお願いします。

◇事務局　今お手元にお配りしておりますカラーコピーの表ですが、市の財政負担ということで、前回お示しいたしました施設整備を含むシミュレーションについて少しわかりにくいということがありましたので、ここで改めて説明をいたします。この表はパターン④ということで、10年目までが運営費交付金が2%減少、それから11年目以降、入学定員が90%、この前お示したシミュレーションのなかで一番厳しいといえますか、そういったパターンでお示しております。上の表ですが、XからEまでの表、これは大学の収支を表しています。下の表ですが、これは市の収支ということで、YとZとそれぞれ分けて表しています。まず、初年度ですが、大学の収支E欄は5億6400万円の収支のマイナスが生じてしまいますが、この年には大学には44億円の積立額がありますので、実質、市の負担、Yのところですが0になります。それから2年目ですが、大学の収支が40億200万円のマイナスということになります。このとき大学には積立額が38億3600万円しか残っておりませんので、その不足額として1億6600万円が市の負担として生じてきます。同じように3年目には5億7700万円のマイナスとなりますが、この3年目以降、大学の積立額はすべて使っておりますので、このマイナス全額が市の負担となります。4年目も同様に2億800万円のマイナスとなり、これも全額が市の負担となります。公立化当初は、どうしても学生数も少なく、単位費用の低い学部学科の構成ということで、2年目から4年目にかけて3年間ほど合計で9億5100万円のマイナスが一時的に生じることとなりますが、これが5年目以降、大学の収支が黒字ということで、その後、市へのマイナスの返済も行われ、それから黒字分を積み立てていくということが可能となります。そういったことで、その積立額は表のZ、グラフでもお示しておりますが、基本的に7年目以降積み立てが始まりまして、10年目には11億1600万円、20年目には22億7600万円ということで、今後の施設の更新経費の積み立てが可能という試算をしております。以上で、財政負担の説明を終わります。

○会長　はい、ありがとうございます。前回、財務的なシミュレーションを示していただきまして、基本的に同じものだと理解しておりますけど、そこについて少し、大学のなかでの収支という話と周南市全体としての話が少しわかりづらいというご意見があったかと思えます。そのあたりについて少し資料を整理なさったということだと理解しております。こちらについて何かご質問ご意見、確認等ござい

ましたらよろしく願いいたします。

◇事務局 若干、補足説明をさせていただいてよろしいでしょうか。

○会長 はい、どうぞ。

◇事務局 繰り返しにはなりますが、要は新たな学部学科の開設が前提にはなりますけれども、公立化に伴いまして一時的に交付税措置を上回る市の財政負担が生じるということでございますが、5年目以降、収支が黒字化しますので早期に財政負担の回収、調整が可能になるということで、中期的にみれば市の新たな財政負担増は生じないと。あと施設整備ですが、これにつきましても大学の現有資産で対応可能ということになりますので、公立化に伴います財政面での大きな課題はないというふうに考えております。

○会長 はい、補足をいただきましてありがとうございます。ただいまの一連のご説明につきまして、経営的な部分につきましては後ほどご意見をいただくことができと思いますが、この時点でもし確認されたいことなどございましたらよろしく願いします。よろしいでしょうか。それでは、この件も含めて全体について、改めて後ほどの二つ目の議題でご意見を伺うことが可能かと思っておりますのでよろしく願いいたします。それでは議題1に入らせていただきます。議題1は報告書の取りまとめということになります。こちら、まず事務局から説明をお願いいたします。はじめに、周南市におかれて、徳山大学の公立化について現状における考え方を示した数枚ほどの「大学を生かしたまちづくりの方向性（案）」、こちらがお配りされていると思います。こちらについて事務局から説明をお願いいたします。

◇事務局 前回の会議で、徳山大学の公立化についての市の考え方について、今回の会議でお示しする旨を申し上げました。このことを受け、この度、現時点における市の考え方を、「大学を生かしたまちづくりの方向性」という形で整理いたしましたので、説明させていただきます。

1 ページ目をご覧ください。今後の大学のあり方と市の認識について、でございます。ここにあげてございます、中教審の答申、まち・ひと・しごと創生基本方針などにありますように、地方の大学がこれからの日本の社会に果たすべき役割は大きく、地域の将来を担う人材の育成、確保や、学生の地元定着の推進を図っていくべき存在であると考えています。若い世代の流出が大きな課題である本市にとって、徳山大学は、山口県東部唯一の4年制大学であり、また、1,000人を超える若者による賑わい、それから年間約18億円の経済波及効果などをもたらす地域の財産であり、地域になくてはならない高等教育機関であると認識しているところです。

2 ページ目をおねがいします。徳山大学を公立化した場合における、大学を生かしたまちづくりの方向性として3つ示しております。一つ目、大学を地域の成長エ

ンジンとした地方創生として、大学が持つ教育研究資源を活用して、地域の政策課題解決のために市との政策連携を強化したり、現在、徳山大学が地域貢献のために設置されている徳山大学地域共創センターや周南創生コンソーシアムをさらに充実させたい、と考えています。二つ目、地域人財循環構造の確立として、小学校中学校、高校、大学までの接続強化や地元の優秀な学生を受け入れる仕組みの強化、また、地元企業へのインターンシップの充実などを通じて、地域の課題解決能力を備えた、地域にとっても必要とされる人材の育成、循環を図っていききたい、三つ目、若者によるまちの賑わいの創出として、公立化し、新たな学部学科が新設されますと、現状よりも多くの若者がこのまちで暮らし、学ぶこととなりますので、大学が行う教育研究や学生が行う地域貢献活動、サークル活動などによって、まちの活力、賑わいを創出していききたい、と考えています。これらの方向性の実現に向けて、公立大学の運営を進めることによって、市と大学との連携の強化により、大学の教育研究資源を活用したまちづくりの課題解決を図ることができること、大学自らが実施する大学改革との相乗効果によって、公立大学としての社会的信頼や学費の低廉化などにより、行きたい大学として選ばれること、そして、地元の企業にとっては、身近な存在として認識し、経営課題の解決や産学共同研究の促進を図ることができる、といった効果が生まれるのではないかと、考えています。

3ページをお願いします。次に、公立化による大学改革推進に向けた検討ですが、設置者としては、徳山大学の開学の経緯や公立化後の意思決定の迅速化を図るためにも、周南市単独で検討したい、と考えています。ガバナンスの効果ということですが、市が設置者として大学の運営に関わることで、運営費交付金など直接的な財政負担も伴い、市民や議会への説明責任も担うことから、大学をまちづくりに結び付けるインセンティブが強まること、また、公立化を行った自治体では、大学との政策連携を図る部署の設置や人事交流などを行うことで、大学の教育研究資源を活用したまちづくりを進めておられることから、本市においても、こうした取り組みを効果的に進めてまいりたい、と考えています。次に地域の定義ですが、県東部唯一の4年制大学として、県東部を「地域」として捉えていくこと、また、県東部「地域」に貢献する大学として、周辺自治体にも様々な形で連携・協力を呼びかけてまいりたい、と考えています。最後に地元定着ですが、地域枠の設定や新たな奨学制度の創設などにより、若者の流出に歯止めをかけていききたい、と考えています。

4ページ目をお願いします。新たな学部学科の検討については、第2回会議でも申しあげました通り、徳山大学さんが検討されている、情報科学部と看護学科については、大学が実施した受容性調査や、本市が実施した事業所等アンケート結果やヒアリング調査によっても、学生や地元事業者のニーズが高いことなどか

ら、市としてもこれらの学部学科の新設は必要である、と考えています。ページの下の方ですが、地域からのニーズが高かった理工系学部については、現状、地元企業は即戦力となる工業高校、高専からの採用が多く、県内にも理工系の大学、高専が存在すること、また、学部の設置には多額の投資が必要となることから、将来の課題にしたい、と考えています。

以上で、説明を終わりますが、今後は、この案をベースにして、委員の皆様からいただいたご意見や、報告書の内容を踏まえて肉付けしていき、市民説明会などを通じて市民の意見を聞いた上で、市としての公立化の方向性を固めてまいりたいと考えています。以上です。

○会長 はい、ご説明ありがとうございます。ただいまのご説明に関してご質問ご意見等ございましたらよろしくお願いいいたします。当面よろしいでしょうか。それでは次のほうにいかせていただきます。報告書（案）についてご説明をお願いいたします。

◇事務局 それでは、報告書の案について、ご説明いたします。

3枚めくっていただき、1ページをお願いします。まず、第1章として、『はじめに』ですが、この報告書の内容については、下から3段落目、「本報告書は徳山大学の現状や公立化先行大学の公立化前後の状況等、当会議で議題となった論点について改めて整理をしたうえで、今後の目指す方向性としての提言をまとめたもの」としており、第1回会議からのテーマごとに主な論点と委員からのご意見等を整理した構成となっています。

2ページをお願いします。4ページまでの第2章『大学を取り巻く状況』では、「18歳人口と大学への進学率」、そして、大学数や18歳人口の推移をみた「大学全体の状況」、各大学の定員充足率を示した「山口県内における大学進学率、大学の状況」で構成しています。

5ページをお願いします。10ページまでの第3章『徳山大学の現状分析』では、まず「沿革・概要」にはじまり、「志願者、入学者、在学者、就職状況」、また7ページからは「学生納付金、奨学金制度」、「経営状況および保有資産の状況」、そして「地域貢献活動」で構成しています。また、10ページの「会議での意見」では、入学定員は充足しているが体育奨学生や留学生に依存しており、結果として奨学費負担により経営が苦しくなっている、また、地元からの進学率は低く、地域から求められている大学像と若干のミスマッチが生まれているといった意見を載せています。

11ページをお願いします。13ページまでの第4章『公立大学の現状、私立大学の公立大学法人化事例』では、「公立大学の現状」にはじまり、これまで公立化した10大学の詳細を示した「私立大学の公立大学法人化事例」、「徳山大学の公立化に対する地元事業者・高校生の期待・興味・関心」で構成しています。13ページの

「会議での意見」では、市として、全国の優秀な高校生に支持されるような大学を作ること、あるいは、地元の高校生の進学を優先する地元根付いた大学を作ること、どちらをより重視するかということについて議論する必要があるなどの意見を載せています。

14ページをお願いします。17ページまでの第5章『新たな学部・学科の検討』では、「徳山大学が検討した新たな学部学科の概要」にはじまり、市や大学が実施したニーズ調査内容や、その結果を踏まえた市の考えを示した「新たな学部・学科の必要性と設置に係る課題」で構成しています。17ページの「会議での意見」では、看護学科について、充実した教職員や実習の施設の確保、また、地域の医師会や医療機関からの強力なバックアップや密接な協力関係の構築が必要になる、また、情報科学部では、他大学と差別化できる独自性あるビジョンやカリキュラムを示さなければ入学者を確保することは難しくなるといった意見を載せています。

18ページをお願いします。21ページまでの第6章『市との政策連携や地元人材の育成・定着』では、具体的な取組内容を例示した「徳山大学が目指す地域連携、地元人材の育成・定着の方向性」にはじまり、市が庁内各部署から集約した取組案を一部掲載した「市との政策連携案」、主な高等教育機関のこれまでの県内就職率を示した「県内における地元人材の育成・定着に資する取組」で構成しています。21ページの「会議での意見」では、入学者の確保について、今後は18歳人口が減少局面にあるため、周南市だけでなく広範囲から学生を集めることが必要、また、公立化を一つの契機として、全体的な人材育成プログラムのビジョンを整理し、効果的な施策ができるように連携を強化していく視点も必要であるといった意見を載せています。

22ページをお願いします。23ページまでの第7章『徳山大学が立地することによる経済波及効果』では、まず「経済波及効果の概要」を示し、具体的な試算結果を示した「周南市および山口県への経済波及効果」で構成しています。「会議での意見」としては、今回の試算は仮に徳山大学がなくなり、学生や教職員による消費活動がゼロになった場合、周南市として18億円程度の経済活動が失われるということだと理解している、また、将来的には市街地にキャンパスを構えるといったことも複合的に検討し、学生がさらに経済効果をもたらしてくれることを期待しているといった意見を載せています。

24ページをお願いします。37ページまでの第8章『徳山大学公立化に係る経営シミュレーション』では、前回会議でお示ししたとおり、はじめに、「経営収支の見通し」において、収入と支出の設定を行い、20年の期間で、運営費交付金の削減率と定員充足率を変えた4つのパターンでのシミュレーションを示しています。32ページをお願いします。「施設改修、整備に係る経費の見通し」においては、毎年

の収支に大学の投資計画案に基づく施設整備支出を合わせたシミュレーションを示しており、33ページからのそれぞれのシミュレーションの下には、参考として、徳山大学が公立化時、仮に44億円の金融資産を保有しているとして、全額を当面の収支の赤字と施設整備に使っていくと金融資産の積立額がどうなっていくのかを試算しています。また、36ページでは、不確定要素が多くありますが、さらに長期でみて、30年以降の必要な更新経費88億円に対し、それぞれのパターンでの金融資産積立額を図示しています。最後に、「会議での意見」としては、資金不足に対して市が補てんをすることについては、人口減少や高齢化が進むなか、また、コロナ禍において市民生活に対する必要な財政出動も想定される状況下、市としてきちんと対応できるという何らかの見通しを市民や議会に示すことが必要といった意見を載せています。

以上までを、現在の報告書の案としておりますが、先ほどご説明しました、市における「大学を生かしたまちづくりの方向性」についても、一部盛り込んだ上で、最終章の「公立化に係るメリットや課題、周南市や徳山大学に対する意見等」では、これから議題2において議論いただく内容、また、ご提出いただいております意見書の内容を整理し、提言をまとめていくこととなります。会議終了後、なるべく早く最終章も含めた報告書案をメールでお送りし、ご確認をいただきながら完成に向けて進めてまいりたいと考えています。報告書の取りまとめについては、以上です。

○会長 はい、ありがとうございます。こちらの報告書案については、37ページの8章まではこれまでの4回の会議の中で皆様の方からいただいたご意見であるとか、事務局からの説明であるとか、そういったものをおまとめいただいているので、基本的にはこの会議に提出されたものがまとめられていると思います。第9章についてはこのあとの議論が反映されてくるということです。第9章、これから皆さんからご意見を伺うわけですが、報告書のここまでの内容について何かお気づきの点等ございましたらよろしく願いいたします。かなりボリュームがございますが、はい、どうぞ。

●委員 この報告書というのはこの状態で見られるということでしょうか。印刷された情報がはっきり見えないというのがありますけれども。画像とか、数字がはっきりと見えないとか、画像の鮮明さですが、こういうものなんでしょうか。

◇事務局 確かに細かい文字とかあったりして、なかなか見えづらいグラフとかもありますので、あと体裁ですね、ちょっとそのへんも含めて、もう少し形を整えていきたいとは考えています。

●委員 はい、ありがとうございます。最初にいただいてじっくり読ませていただいたのですが、今、説明をまた受けてなるほどと理解したんですが、どうしてもこういう報告書というのはフラットな、すごく平穏的な情報ですけど、もう少し例え

ば要点要点を見やすくする、今言われたような内容がわかりやすいなど思ったんですが、そういうのは可能なのでしょうか。それともこういうものですか、その報告書の体裁、今のいわゆる強調する部分というか、まとめてある部分がこういうところが大事なところですよ、というのは。

◇事務局 現在の報告書案の構成につきましては、これまでのテーマごとに整理してですね、各章の最後にいただいたご意見等を入れさせていただいております。先ほど言いましたように最後の章につきまして特に委員の皆様方からいただいたご意見等、メリット、課題にそれぞれ整理して最終的な提言というかたちでまとめていくようなことを今想定しております、委員おっしゃいますようにもう少し見やすくする工夫は必要かと思いますが、基本的にはそのように考えています。

●委員 わかりました。

○会長 はい、ありがとうございます。やはり原点としてデータをかなり収集していただいているんで、それらをきちんと残していくというのはたぶん情報公開の観点からも重要だと思うんですけど。今のご意見との関係で少しだけ思ったのは、よく行政で計画をお作りになるときに、本編と要約版みたいな市民の方に配る、数ページの短いものをお作りになることがあると思うんですが、ご予算とかよくわからないのですが、例えばダイジェスト版というようなものもあっていいのかもと、今のご意見との関係では若干そういうことを思いました。ご意見ありがとうございます。その他、何かこの報告書について何かございますか。

●委員 たくさんの内容をコンパクトにまとめていただきまして本当にありがとうございます。基本的にはここで議論した内容に沿っていると理解しておりますけれども、これは表現の問題もあろうかと思いますが、比較的マイルドに仕上げてくださいという印象です。読んだ時のあたりとしてはソフトでいいのですが、現状分析についてはこの会議ではかなり厳しいご意見も出ていたように記憶しております、会議での意見ということなので場合によっては異なる意見を書いても構わないのではないかなと感じる部分がありました。総意としての意見というような書き方ではなくて、具体的にこういう意見が出ましたというような、例えば異なる意見をいくつか箇条書きにするなど、若干対立するような意見なども書いても構わないような印象を持ったのですが、そのあたりは全体の相場観でまとめておられるのでしょうか、という質問が一つ。それと、それとも関連するのですが、私はこの会議で何度か、広域連携を考えてはどうかという意見を申し上げました。基礎自治体間による周辺の圏域での広域連携で大学を支えるというような仕組み、場合によっては運営をすることが可能かどうかであるとか、また広域連携として県との関係・連携を考えることはできないかということは何度か申し上げたように記憶をしています。ただ先ほどご説明を頂戴した別の資料、「大学を生かしたまちづくりの方向性」では、市単独で検討するというように決めておられる

ようなので、その部分はもしかしたら報告書にはあまり触れられないのかもしれませんが、広域連携の部分について一応選択肢としてありうるのではないかという意見があった点については、何らかの形で市民の皆様にも知っていただきたいと思いました。以上です。

○会長 はい、ありがとうございます。取りまとめに関して重要な点のご指摘だと思っているのですが、ちょっとよろしいですか。例えば、第9章である程度おそらく各論において幅のあるご意見がでると予想しておりまして、そのあたりについては極力、反映するというか取り込んでいただくような方向がいいんじゃないかと、その点私も思っているのですが、そのあたりと今のご指摘についていかがですか。

◇事務局 まず2番目の広域連携、このことについて他の委員さんからもそういうご意見をいただいております。そういう意見はもちろんこの会議の中で出た意見ですので、報告書の中に意見としてももちろん取りまとめをさせていただきたいと思っております。それから、書き方というかまとめ方ですが、今この現時点で4回までの会議を終えての報告書の案ということです。今日も、あとたくさんご意見がいただけるかと思えます。今、意見が一番最後のところにですね、少しまとめている形で書いているんですが、そのあたりにも、もう少し先ほど出た箇条書きですか、いろんな対立というか双方からの意見もありましたので、そのあたりのまとめ方についてはちょっと工夫をさせていただきたいと思っております。以上です。

○会長 はい。そのあたりはやはり極力、多少、幅のある意見がそのまま報告書に反映されるような形でということで、私のほうからも取りまとめのなかでお願いしてまいりたいと思えます。そういう方向性でよろしいでしょうか。

●委員 はい、結構です。

2 議事：(2) 徳山大学公立化に係るメリットや課題、市や大学に対する意見等について

○会長 ありがとうございます。それでは、今のご意見とも関わるので二つ目の議題に入らせていただきたいと思います。議題2「徳山大学公立化に係るメリットや課題、市や大学に対する意見等」ということです。ここまでするね、様々、市の考え方、それから徳山大学学長にもお越しいただいてご説明いただいたりとか、様々、ご説明をいただいてきました。そして、この場でも議論してまいりました。それらに関してですね、意見を事務局から事前に提出のお願いがあったかと思いますが、そこに入ってないところも含めて、皆様からご意見を伺ってまいりたいと思っております。どなたからでも結構です。基本的には皆様にご意見をいただきたいと思っているのですが、どうでしょうか。それでは、一応、私のほ

うでも用意はしているので、ちょっと私のほうから少し口火を切るような形で意見を。これは、これまで私、基本的に議事進行してまいりましたが、ちょっと個人の意見ということで少しまとめさせていただいたので、長くなって恐縮なのですが、では私からさせていただきます。

○会長

まず公立化のメリットというところですよ。先ほどの市の資料の中で地域のシンクタンクという言葉が使われていました。やはり地域に大学があるということの意味はおそらくその部分が一番大きいんじゃないかと、私個人としては思っております。シンクタンクとして徳山大学が機能することができれば、今後の地方創生であるとか地域間競争というものにおいて周南市にとって有益であると思っております。この点については、本来は私立大学であっても地域貢献というのは可能なはずなんですけれども、ただやはりこの会議で周南から出ておられる地元ご出身の委員のご発言を拝聴いたしまして、やはり現状において必ずしもそういった地域にとって頼れる存在というふうに認識されていないように感じられます。公立化であるとか新学科の開設を契機として大学と地域の関係を深めることができれば、それはやはり地域の魅力向上にもつながると思います。それからメリットというか、やはり積極的な要素として、今回こういう提案を徳山大学がされた背景としては、やはり短期的にはともかく、中長期的にはやはり私立大学としての持続がむつかしいというご判断があったのだらうと思っております。やはり先ほど経済効果の試算の話もございましたけど、それだけの効果を周南市において生んでいると、それがおそらく徳山大学が失われればその効果が失われると、周南市にとって看過できないような損失なのであればやはり公立化という手段で徳山大学を再生するということにも意義があろうと思っております。あとタイミングという観点では、現時点では大学は金融資産を保有されているのでそれを新しい大学の初期投資に使えるという点はメリットであろうと考えています。こういった点が公立化についておそらくポジティブな側面として私が考えている点です。

課題なんですけれども、看護と情報の学科を新たに設置されるということで、これらの徳山大学が現状で関連分野をお持ちではありません。ですので、ほぼゼロからの教員確保が必要になろうと思います。そこがうまくいきませんと新学科設置自体がむつかしくなります。ですので、そこに関しては、おそらく大学もですが周南市あるいは地元関係者のご協力が必要なんじゃないかと思っております。先ほど経営収支についてかなり詳しくご説明いただきました。私、あのシミュレーションで一番重要な点だと思っているのは、今申しました看護・情報の2学科の開設というのが経営の安定に不可欠だということを計算は示していると理解しています。そこについて、もし仮にリスクがあるとすると、やはりそこは周南市にとって財政負担というところで一定のリスクなんじゃないかと思っております。ですので、そこに対するリスクマネジメントが周南市としてはおそらく必要なんじゃない

いかと。具体的には新学科がうまくいくという見通しがおそらく必要なんじゃないかと感じました。課題の2点目ですが、大学の場合には運営交付金というものがありまして、それによって経営が大きく左右されるという面はございます。それは徳山大学と申しますか、こちらの大学さんだけでなく他の大学もそうだと思いますが、その部分、やはり国の政策に左右されるという面はございますから、そこは厳しいシナリオも想定しておくべきではないかと考えております。課題の最後ですが、報道等において類似した学科の開設の検討が近隣でも報じられておりました、おそらく競争激化というものはやはり周南市におかれても考慮される必要があるかと思っています。以上が課題です。

市への意見です。こちらですね、先ほど考え方をお示しいただきました。これをもう少し肉付けしていかれるとのことでした。それはやはりぜひ重要で、その中で市民の皆さんであるとか市議会の皆さんとか、あるいは実業界の皆さんとか、いろんな各界の皆さんといっしょに考えてよい大学を作っていくということが大事だと思います。そこはまだ始まったところだと思います。そのためには、地域を市が巻き込んでいくということも必要じゃないかと思っています。それから、地元の進学を高めたいとか、地元就職を高めたいというお話がございまして、やはり設置者としてそこをお求めになるのは当然だと思うんですけども、参考までにうちの大学の統計をちょっと確認してきたんですけど、山口大学、令和2年の入学生の中で山口県の出身者というのは大体3割ぐらいなんです。逆に言うと過半数は県外の学生ということです。やはり強い大学を作っていくという意味では、やはり地域外の学生も積極的に受け入れて外部の視点をまちづくりに生かしていくというような姿勢も重要じゃないかと思っています。そのためには、域内の受験生にも魅力を感じてもらえるような教育も大事じゃないかと思っています。先ほど委員のご発言にもございました。他の委員も含めてですね、複数の委員から、やはり山口県東部全体を視野にいたした大学づくりを求めるご意見が出ていると思います。本日も地域とは山口県東部のことであるというような文言が先ほどございました。それは大事だと思います。ですので、やはりそのあたり、周辺自治体との協力というのも目指していただきたいと思っています。いろいろ申しましたが、私も大学にいるものとして感じる場所として、一方で大学が行う教育研究活動というのは直ちに目に見えるものばかりではないと思います。大学の設置者になられるとしたら、もちろん成果を要求されるのは当然だと思うんですけど、ただやはり腰を据えた取組というのは大学を育てるといときには重要だと思うのでそこもお考えいただければと思っています。あとですね、最後に地域のことを書きましたが、例えば地域におかれて学生さんが何が必要かという、やっぱり学資が必要であって、あと就職先がやはり必要なんです。そういうことを考えたときに具体的には例えば、給付型の奨学金とか、そういうものがあるとおそ

らく非常に学生さんにとってありがたいことだと思います。それからインターシップ等ご協力いただいているということですが、就職先も含めてもちろん会社のお考えもあると思うんですが、そのあたりももちろんありがたいことです。あと教員にとっては研究成果とか研究資金とか大事です。そういう意味でいうと、例えば、研究テーマになるような地域課題を出していただくって、それ実は研究者にとってありがたいときもあるんですね。そういったところもあると思いますし、もちろん可能であれば研究資金とかそういうものもご提供いただければ、一番教員にとってありがたいんじゃないかと思います。

最後に大学への意見ですが、やはりおそらく市民の皆さんの中に私立のままだでも地域貢献はできるのではないか、あるいは私立のままだでも学部改組や新学科はできるのではないか、というご意見もあり得るんじゃないかと思います。やっぱり、そうじゃないんだと、公立化で今までできなかったことができるようになるんだと、というところについておそらく大学さんとしてもよりその説明はあるんじゃないかと思いました。以上、私のほうで事前に準備させていただいた、これ完全に個人としての意見ということになります。長々申し訳ありませんでした。どなたからでもどうぞ。

●委員

公立化のメリットということで言いますと、地方の私立の大学は非常に経営が厳しい中で、公立化することで、ブランド力がつくということからいうと、受験生が増えて競争倍率が上がるということが大きなメリットであると思います。先ほど会長がおっしゃったように、地域のシンクタンクとして、ぜひ、いろんな地域課題の解決に向けて、教授や学生に研究をやっていただいたりレポート出してもらったりして、活用させていただきたい。そういう意味でも、大学には高いレベルに是非なっていたらいい、というふうに思っております。

公立化の課題、ということからいうと、公立化によって改革の自由度が失われることがないように、できれば、公立化の前に、早いタイミングで市と大学が、早期に改革について話し合いを始めてもらって、私立大学のうちにできることを積極的にやっていっていただきたいと思っております。

公立化にあたっての大学への意見としましては、この議論を契機に、思い切った改革を進めていただいて、地域に必要とされる大学になっていただきたいので、積極的に、組織改革とか体制づくりに取り組んでいただきたいと思います。また、若者の地元定住を促進させる意味でも、地元の高校生が入学しやすい仕組みづくり、奨学金や優遇制度といったものをつくっていただくとともに、学部の再編についても地域の関係する団体などとの連携を早期に、積極的に接点をもつていただくよう努めていただきたいと思います。

市に対する意見としては、今日お示し頂いておりますが、市のビジョンを議会や市民の方に積極的にPRして頂いて、ぜひ公立化に向けて色々な意味で努力を

していただければと思っております。以上です。

●委員

私は公立化に関して、一番のポイントは、将来が危惧される一つの大学という事業体を救うというスタンスでは、最も消極的であることから、将来の周南市にはつながらないと考えます。まずは、設置者として、いわばオーナーですから、周南市が大学を運営していくという強い意志を表明し、それを市民の皆さんが共有する。そして、大学の存続は地域全体の課題である、それぐらいのパワーがないと、今後の大学経営は、国公私含めてどの大学も、厳しい状況に入ると思います。そういう意味からすると、冒頭の説明にありました市の大学に対する見方として、「地域の財産」であるというふうに、まずおっしゃいましたが、それを是非、アピールしていただきたいと思います。それで、当面何年かの赤字というのは、今、見える範囲での大学の赤字か黒字かということですが、地域の存続ということをして市が総合的に考える場合に、増えた人材を地域に輩出することでどれくらい地域のGDPのようなものが上がるかという地域の将来への投資であるというように、トータルな観点から推し進められた方がよろしいのではないかと思います。むしろリスクは、公立大学設置の積極的な意味を、市民が理解されなかった時が一番リスクだなというふうに思うわけです。そういう意味ではオーナーとなられる市長さんのリーダーシップのもと、どういう意図があるのかということ強くアピールする必要がある、というのが第1点です。公立化の次のメリットなんですけど、大学と地域が連携をすることは、個別にインターンシップをしたりとか、様々な公開講座をすとかいう小さなことだけではなくて、地域金融との関係とか、地域産業分野との関係とか、いわゆる産業政策とのつながりの中でも、自治体はつなぎ役として、もっと積極的な役割もあるのではないかなと思います。1点目も2点目も、オーナーとなる市への期待というのが大きいということかと思えます。

さらに、いくら市がリードいたしましても、実際に教育を行うプロである大学にとってみれば、国公私全ての大学に問われることですが、外からも選ばれる大学、それぐらいの魅力ある教育プログラムを打ち出さなければ、組織としても機能としても成り立っていかない。そういう理解からしますと、看護師養成のところは、いわばエッセンシャルワーカーを地域にちゃんと根付かせるということでもわかりやすいんですけども、新たな情報科学部は今後のあり方から順次考えるということですが、経済経営学部と情報科学部の関係など、地域の産業界との教育ビジョンをより計画的に作られて、具体的な大学の強みとしてブラッシュアップされることを期待したいと思います。

雑駁な意見でございますが、大学とオーナーである市に対する大きな期待と、それを支える地元産業界が、具体的な奨学金やインターンシップ等のあり方から、大学経営への次元での積極的参加に関することまでも、市・大学・地域の3者

ががちり組むようなことを実質化し、「見える化」する必要があるんじゃないかなと感じております。以上です。

●委員

本件については、地元の産業界の一つの意見として、ぜひ強力に推進していただきたいというふうに認識しております。先ほども出ましたけども、あくまでも救命策、延命策ということではなくて、積極的にまちづくりを進めていくという観点でございます。ただ現実には、このまま放置しておきますと徳山大学の将来は非常に厳しいということで、大学自らが改革に乗り出すということで、これについても敬意を表したいと思います。できれば、今回の会議の中でこれまで出てきませんでしたけども、このまま、私立大学のまま続けていけば、どれくらいのことが将来考えられるだろうかと、数字も含めてですね、これは今一度、比較、検討しておく必要があるのかなと思います。そういった意味で今一度、原点に立ち返って、地域に必要とされる、時代の要請にかなった質の高い高等教育機関に再生させる、というのが、今の我々の世代の責任ではないかというふうに考えています。しかし一方、人口減少に向かう中、本当に周南市だけが抱えていいんだろうかと、今からでも遅くないので、県東部を地元とするのであれば、山口県との連携、あるいは山口県さんにも経営に参画していただく。最低でも周南地域である、下松、光市さんと、具体的な、ただ総論で協力を願う、ということではなくて、広域連携の仕組みづくりも含めてぜひ進めていただきたいし、県や隣の自治体との話し合い、議論がどのようになっているのか、ぜひわかる範囲で情報として必要な市民さんには知らせていく必要があるのではなかろうかと思っています。あと全体を通じて新しい学科、ポイントは優秀な教員をどのように引っ張ってくるかと、これもまさに競争の世界だろうと思います。その辺がいまどのような状況になっているのか、目途があるのか、この辺も関心の高いテーマだと思いますので、情報の開示が必要ではないかと思っています。

個人的には公立化によるメリット、産業界とも非常に連携しやすくなる、というのがありますが、もう一つ、向学心が旺盛であっても経済的な事情でなかなか大学への進学がかなわないという地元の高校生もたくさんおられるだろうと思いますので、そういった面で就学支援といったものができやすくなると。仕組みなど含めてですね、これについては大いに期待をしたいと思っております。くどいのですが、やはり、周南市だけでは抱えるテーマではないと思います。特に、地域医療、地域福祉、地域産業という意味からしても、この地域の特性からすると、やはり周南地域、県東部を考慮した仕組みづくりを今からつくっておかないと、やはり周南市単独の財政シミュレーションは相当厳しくなるのは間違いないと思います。国からの色んな支援も、本当に2パーセント程度の減でいいのか。もっともっと最悪の事態も想定しておく必要があるんじゃないかと。それであっても、やはり大学の喪失は、計り知れない損失がありますので、乗り越えていく必

要があると。あるいはリスクヘッジをどのように行っていくのか。こういったことも一般市民にも示していく必要があろうかと思っております。

厳しい話ではありますけども、総論としては看護学科含めて、大いにこの地域を盛り立てていく、地域を維持していくためにも、産業界としても、新しい学科としては大いに期待していきたいと思っています。以上です。

●委員

今回、意見書という形で、公立化のメリット、課題、それから市や大学への意見、ということで出させていただきました。その内容について、私の話をさせて頂けたらと思います。前提として考えたのが、二つございます。一つがまず、長期的な視点でございます。大学を公立化する、ということは、やっぱりうまくいかないからやめます、ということは、なかなかそれはできませんよね、ということで、長期的な視点というのは外せないと思っています。それからもう一つ、これは誤解を恐れずに言えば、という前提を置かせていただきますが、大学運営のビジネスとしての経営の限界、というふうに思っております。ビジネスを前提として大学を運営していきましょう、と考えていくとするならば、それはなかなか厳しいんじゃないでしょうか、というふうに私個人は思っております。以上の2点を前提としてお話をさせていただきます。

まずメリットですけども、これは私自身も他の委員のお話にあるとおりでございまして、非常にあると思っております。特に地域に若者がいるまちづくり、この重要性は何事にも代えがたいと思っております。また公立化することによる運営費交付金による大学の運営を考えますと、経営の安定にも繋がりますので、このメリットも重要であると思っております。

メリットのところはこれくらいにさせていただきますして、公立化の課題、でございます。課題につきましては、先ほど委員も申し上げておりましたけども、お言葉を借りますと、市の強い意志、とおっしゃっていたかと思えます。私はここを公立大学を設置するにあたっての哲学というふうに思っております。この哲学を確立されるところが非常に重要ではないかなと思っております。大学運営でございますのでやはり、教育研究のクオリティを維持する、向上させる。しかもそれを長期的な視点から行っていくことを考えますと、いかにこの公立化した大学を周南市としてどのように考えていくのか、という強い意志、強い哲学が必要であろうと思っております。今回のこの大学のお話ですね、伺いますと、看護学科をつくる。学部を再編する、というお話もございました。それで定員数を増やすという前提での収支のシミュレーションということで考えられております。これは、一步引いて考えるならば、現在の少子化した日本の社会で考えてみますと、ある意味社会に逆行した方針というふうに捉えられかねないのではないかと思います。一時的には学生を確保できたとしても、これを長期的に考えた場合に、果たして、ずっと学生を確保することができるのでしょうか、という、そ

これは誰にもわからないところではございますが、やはりそこはリスクが出てくるんだらうと思っております。そこは課題だと思っております。前提として、周辺、例えばとなりの県に新しい大学ができるとか、やはり魅力的な大学をいかにつくっていくかというのは、どこの地方にとっても課題であるはずで。色んなお考えで色んな大学をこれからつくっていくという動きは、これから増えるはずで。ということ考えた場合、周南市が公立化する大学でいかに学生を集めるか、ここは大きな課題だと思っております。それから財政的な面でございます。運営費交付金ですね。国から市に地方交付税が交付されまして、それを財源として市から大学に運営費交付金として交付されます。このところですが、やはり、国から市へ交付される地方交付税を前提とはしながらも、一方で、市から公立大学へ交付する運営費交付金、これは、大学の運営に真に必要な額を交付することが必要だと思いますので、必ずしも地方交付税の範囲内に収まり続けるというふうには言い切れないんだらうと思っております。このあたりは、市の覚悟というか、哲学というか、強い意志というか、そういったところは長期的な観点から必要かと思っております。

公立化にあたっての市への意見でございますが、先ほども申し上げたことと重なるところもあるかと思っておりますが、やはり、公立化した場合、市は設置者となるわけですから、大学の教育研究クオリティの維持、向上、長期的な視点からの大学運営、そういったところに責任、あるいはリーダーシップを有するというふうを考えております。現状、先ほどご説明いただいた、市としての大学を生かしたまちづくりの方向性のお考えを示していただいたところでございます。こういったところも、十分に留意して運営していただきたいと思っております。先ほどの市のまちづくりの方向性の中身を拝見しますと、基本的に前向きなことを書いてあるのはもちろん結構なんですけども、課題の認識とか課題に対する具体的な取組とか、そういったところも、もう一步踏み込んでいただければ、さらにいいのかなというふうに思ったところでございます。また、この公立化にあたっては、市民への説明責任、透明性の確保、ここは重要な論点だと思っております。具体的な検討されている内容、決定した事項、そういったことは、総括的に、詳細かつ丁寧に説明していただくということが必要であらうと思っております。

大学への意見でございます。大学については、運営の主体となってくるわけでございますので、引き続き、大学の定員数を増加するという方針、これは先ほど申しました、少子化の社会情勢には逆行するように捉えられかねませんので、いかにそれを確保していくのか、そういったところの取り組みをですね、継続的にしていただきたいというふうに思っているところでございます。長くなりましたが、以上でございます。

●委員

公立化のメリットとしては、経済効果が一番大きいと思っておりますが、大学ができて福知山市の高齢者の方が元気になっている、という話を聞きます。それは若者が増えただけじゃなくて、若者とコンタクトする機会が増えていると、いうことが貢献していると思います。その他京都府がやっておりますけども、高齢者宅の空き室に学生が下宿することも進めています。その他、高大連携は多くの大学は行っていますが、小学校や中学校との連携も大事です。子供たちにとって将来の選択肢の一つとして大学を見たり、経験したりとかいうことが彼らの将来にとってプラスになるだろうと思っております。研究開発に関しては産学連携ということはよく言われますけども、なかなか実を結ぶのは難しいところがあるかと思えます。言うのは簡単ですが、企業側とのマッチングが課題だということと、もう少し汎用的な技術になると、地元企業というレベルを超えてしまいますので、大学としてはいいのですが、公立大学として地元から見た時にどう見えるのかというところは少し気になるところです。その他、廃校になった学校の施設を大学が使う可能性があるのではと考えています。学生の活動する場所としてもいいのではないかと思います。

公立化の課題ですけども、お示しいただいていることだと思えますけども、やはり公立化の狙いとか、実現したいことをもっと明確に出す、皆さんがわかるような言葉で見せる必要があるのかなと思えます。抽象的にはいろいろな表現が出てくるかと思えますけども、イメージを共有するというのが、非常に大切であると考えております。当然ながら18歳人口が減るのは目に見えておりますので、それをどうやって補っていくのか、社会人を対象にとっても、ここまで情報通信が広がると、東京や大阪の大学が直接やりとりする場面は当然想像されますので、対面式でなかつ、魅力を見せて社会人に来てもらうというのが、これから一生懸命考えて実行しなきゃいけないことと考えております。

市に対する意見ですが、学生を確保し続けることができるかということになります。長期的な視点ということからいくと、定員割れとか学部を改組しなければいけないとか、いろんな話が出てきます。それを、現段階でどういう具合に捉えておくか。大学同士の合併みたいな話もそのうち出て来るかもしれませんし、法人をつかって云々という話もありますけども、具体的に考える必要はありませんが覚悟としてそれぐらいのところは見定めておく必要があるかと思えます。最悪の場合は解散も考えられますが大変なことになりますので、それを避ける。あるいは仮にそうなった時にどのくらいのコストがかかるのか、くらいことは、少し考えておいた方がいいのかなと思えます。それから、必要で十分な財政措置をぜひお願いしたい、ということです。先ほど委員もおっしゃっていましたが、交付税の範囲がマックスです、というのはちょっと違うのではないかと思います。先ほど申し上げた実現したいことを明確に、という中で、それならこま

で出してもやむを得ないかなという、そういう感じで進めていただければいいのかなとは思っています。それから、ほとんどの大学には設置者から職員さんが出ているかと思えますけども、ぜひ5、6名は派遣していただきたい。大学というものを肌で感じて市に持って帰っていただくという流れをぜひ作っていただきたいと思っております。

大学に対しては、市民向けの活動報告会を実施してもらいたい。学長さんはじめ学部長や学生代表がプレゼンして市民や企業さんと直接対話する場面を設け、継続していただきたい。次に、難しいのですが自己収入の拡大策というものを考えざるを得ないような状況になってきております。基本は授業料と交付税ということになっておりますけども、どうもそれだけではいかんみたいで、たぶん国立が経営活動みたいなイメージをどんどん出してくると思えますので、公立大学もたぶん、それにならってという形になるんだと思えます。そうすると大学自身だけではたぶん対応できない場面も出てくるかと思えますので、民間の知恵をうまく取り込んで、というような場面も必要になってくるかと思えますので、ぜひ、そういうことも気にしていただきたい。最後に、採算は常に意識しておく必要があります。30名規模の学科があるかと思えますけども、これは本当に採算があうのかなと、考えたりもします。私立大学のような発想でとらえる必要もあるのかなと思えます。以上でございます。

●委員

中学校卒業生数は今後15年間で、県内で約3,000人減少するといわれています。同時に高校に入学する生徒がそれだけ少なくなっていくということです。3,000人というのは40人学級で計算すると75学級になります。単純に言うと徳山高校が1学年7クラスですが、一つの地域の中でこれ以上になくなっていく、そのようなイメージに15年後はなろうかと思えます。そういうふうな状況にあります。そして、もう一つは国の方の動きで、中央教育審議会では、全国の高校の多数を占めている普通科について改革をしていく、いろいろと学際科学的であるとか地域創生であるとかそうしたものも含めて、細かく、さらに特色を持たせる科に変えていく改革が求められています。そういうふうに、つい先日、新しい学習指導要領ができて、新しい大学入学共通テストが始まり、高大接続改革が行われたと思ったら、次の改革に進んでいるんです。世の中がすごい勢いで変わっていています。だから、先ほどシミュレーションが出ていましたが、本当に15年後とか20年後にどうなっているかという、本当に変わっていくのではないかと思います。そういった中で公立化を考えていくことを思うと、議論していますが、おそらく10年後にはまた違うことを考えて議論していくようになると私自身は思っています。

その中で、公立化のメリットについては、まず何とんでも大学というものがここに存在していて、これを存続できるということです。先ほどの市の説明にも

ありましたが、大学のあるまちとして魅力づくりができるということです。極端に言うと大学のないまちではこれはできないということです。山口県でも大学をつくろうと努力した市がありますが、結局できなくて、中止となっています。だから、大学があるということ自体が極めて貴重な価値を持っていて、そこを起点として、魅力あるまちづくりができるということが大きなところだと思います。あとは、少子高齢化、人口減少が進む中で、若者を確保できるし、そして、その人たちが4年くらいでどんどん入れ替わっていきます。その流動性というものは非常に大事だと思います。これをもとに計画的なまちづくりが可能だと思いますし、当然一定の経済効果、人材確保ができるということです。もう一つは、既存の施設設備を活用でき、例えば、企業等の誘致や大規模イベント開催に投じる資金や労力よりも少なくして大きな効果を生むことができます。あとは高校生にとっては、入学金や授業料といったものが軽減されるというメリットがありますし、経済的な理由等によってということがありましたが、地元の高校生等にとっても選択肢が増えるという良さがあります。生涯学習でいいますと、徳山大学という場を使って、成人して学び直し、学び続けるということもできます。

課題というところは、最初に言いましたが、やがて世の中、周南のまちも変わっていくだろうと思います。その中で、大学の教育の質の向上は常に追求し続けていかなければならないだろうと。これさえやっていれば100年は大丈夫というようなものはなく、常に質の向上を追求することが必要なんじゃないかと思えます。そのためには、常に新たな人材を確保することが必要でしょうし、そうすると施設整備の老朽化であるとともに教育の質の向上に向けた更新であるとか、人材確保とかについての財政負担が今後生じていくことをやはり覚悟しなければいけないと思いますので、その見通しがいきます。あとは、徳山大学をより有効にと考えたとき、立地であるとか利便性の追求も必要ではないかと思えます。例えばアクセス一つにしても、どういうふうにしていくかでだいぶ変わってくると思います。その中で、やはり大学と市との役割分担と責任の明確化が必要ですし、運営組織の体制づくり、第三者や専門家による検証や改善、見直しについて、これから先、常にやっていかなければならないと思っています。

市への意見というところですけど、周南市のまちづくり計画の中に明確に位置付けるということが必要でしょうし、積極的に情報公開したり、多面的、客観的な評価をする、あるいは広く意見を聴取することが大切だと思います。やはり多くの賛同を得ることが必要なのではないかと思えますし、たくさんの市民から受け入れられているという環境の中で、大学生が学び活動するというのを私は願っています。あとは地元の高校生が大学に行くというのはいろいろありますが、教員もそうですが、やはり学生が素晴らしいということがあると思います。世界各地、あるいは地域外から多様な素晴らしい人たちがそこに来ている、そこに吸

い寄せられて大学を選んでいくというのがありますので、地元も大事ですけど、広く地域外、世界から多くの人たちを受け入れていく、そういった視点が重要であると思っています。

大学への意見につきましては、同じことですが、一つは公立化の前提が看護学科、情報科学科の新設であると思います。その見通しの中で、公立化が適正かどうかということ判断していくというふうになっていると思います。入学定員数が280名から400名、つまり120名ほど増える中、新設予定の看護学科、情報科学科の入学定員数は80名と50名で130名です。結局増えるのは看護科と情報科学科の定員が増えていくということなんですけど、その入学定員の占有率は、32.5%、3分の1くらいです。つまり現状維持の上で、看護学科、情報科学科の新設をしていく拡大基調となっています。そうすると、現状維持のところが大きなウエイトを占めていると思うので、そこの入学者の確保は今後非常に重要じゃないかと思えますし、今なかなか難しいということになれば、そこの教育内容の更なる改善が大学に求められると思います。新しいところに目が行っていますし、そこでお金がたくさん手に入るとか、あるいは学生が増えるとかありますが、実際は今ある学部学科、そこにどういふふう改善を図れるかがむしろ重要なんじゃないかと私は思ったところです。最後に、私は高校の校長をやっておりますけど、高校において生徒の進路選択とか進路指導というのは、以前お話ししましたけども、過去の実績に基づいて行っていくわけです。ですから、大学の過去の実績というのを振り返っていくと、やはりなかなか第一志望にはならないという現状があります。そこを払拭して、課題の解決を図ることが最も重要ではないかと思っています。

●委員

私は教育委員会から会議に参加している訳ですが、実際私が関わっているのは地域コミュニティスクールであったり、要するに教師という立場ではなく、地域のメンバーとして教育委員会に関わっています。なので、やはり地域とともにと言いますか、地域にどのように関わっていくかということにすごく興味があります。もちろん産業、経済、そういうところにも関わってくると思いますが、少子化で人が減ると、衰退といった言い過ぎかもしれませんが、本当に寂しくなり、祭り一つとってもなくなってしまうと、そんなまちになってしまうので、人がいるというのは大事だと思います。大学があるまちはどこに行っても、大学が活発に動いていけばいるほど、まち自体に動きがあります。ただし、そこにはいろいろな条件が関わってきていて、理想通りではないところもあります。ただ、周南市はすごく交通の便もよく、なんでこれで賑やかにならないかと思うくらいポテンシャルを持っているということは言われています。なので、これはやり方次第で如何様にもなるんじゃないかと私は常々思っています。

今回も意見書を考えるときに、公立化のメリット何ですかといわれたら、いわ

ゆる可能性への期待値でしかないとは思いました。要するに公立化することで市民が参加できるということ、これまでと全く違う、何かやっているねではなく、自らでも参加できるという期待値が湧いてくると。そういうことからいうと、ぜひとも進めたいことです。

しかし、そのためには、いろいろな課題がありますが、見える化といいますか、情報をわかりやすくしないと、市民も一体どうなっているんだろうという話になりかねないので、そこはすごく大事で常に忘れずにやらなければならないと思います。皆さんの見識を聞かせていただいて、参考になることがたくさんありました。私も地域の人たちと関わると、徳山大学が公立化になるということにどういう印象持っているのかと思うわけです。すぐ行きたいという人がいるかといわれると、ちょっと二の足を踏むというか、もっともっと大学の魅力を作ってくれないと、子供たちに行かせたいと思えないといったことを聞きます。小学校中学校では自己肯定感を高めるという話をしますが、地域肯定感を高めるためにも、やっぱり徳山大学がある素晴らしいまちですよと言えることがないと、結果的には何のための公立化だろうとなりかねませんから、どういう大学にするかというビジョンをしっかりと作らなければいけないと思います。そのためには、市民の意見を聞ける仕組みを作ってほしいと感じています。いろんな課題があります。例えば学力を上げてほしい、もっと大学のレベルを上げてもらいたいといわれれば、逆にいろんな生徒さんを地元から採用してほしい。いろんな相反することが起こるかもしれない、一本では進められないものがたくさんあります。10年後はどうなっているかわからないという話がありましたけど、私もそう感じます。これだけインターネットが発達して、これからの大学がどんな位置づけで、どういうふうに関わっていくのだろうと考えると、今まで通りだとうまくいかないかもしれない。なので、先ほど解散という言葉も出ましたが、それもなかなか取り越し苦労になりかねないので、そこはしっかり見ていかないといけないことなんじゃないかと思いました。

とにかく私が言いたかったのは、見える化にしてほしい。そしてわかりやすい説明と議論を深めてほしくて、ありきではなく、先ほど厳しい意見がなくまとめ方もまるやかだという話もありましたが、議論を深めるということで進めてほしいと思います。市民の声を聞いて結果どのような形になるのか。既存の大学だけではなく、少子化、高齢化、いろいろなことを含めた、こんなまちづくりのための大学があってもいいなという形を提示できるような議論をしてもらいたいと思っています。

○会長 ありがとうございます。それでは、ご欠席の委員のご意見を事務局が預かっているということですので、ご紹介いただければよろしいですか。

◇事務局 それでは、はじめに公立化のメリットです。抜粋をさせていただきますが、こ

の徳山大学公立化は、地方私立大学の存続を助けるために行われるものではなく、周南市の地域活性化、地方創生のために行われるものだと思います。その事をまず全員が認識しなければなりません。公立大学の利点は、まず授業料が私立に比べ安いことが最大の魅力と考えます。また、保守的な地方都市においては、公立というのは何よりも大きな魅力でありブランドとなります。さらに徳山大学はスポーツが大変優秀であるので、これを魅力・特徴と位置づけ、さらなる優秀な指導者、選手を集めることにより、全国でもあまり類のない文武両道の大学となり得るはずです。地域においてはまず人口を増加させていくことが大切です。もちろん人口増加は産業界にも大切なことですが、人口減少はコミュニティの消滅を意味します。いかに周南市を将来的にも人の住む街にするかを考えたとき、新幹線も止まり大手企業も存在する周南市が大学を持つということは、周南市の誇りとなり、必ず将来まちづくりに大きなポイントになるはずです。今の時期を外して大学の公立化を実行するときはないと思います。

2番目の公立化の課題ですが、文系の研究内容を目的に学生が集まるのは現時点では難しいと思う。当面は公立ということで学生が集まると思うので、その間に学生をしっかり鍛え特徴ある研究を推進し、特徴を作らなければならない。そして、そのためにはやはり理系学部、保健系、看護系学部の整備は必要不可欠であり、早い時期での実現が求められる。これは一私立大学の救済ではなく、周南市が将来どんなまちづくりをするのかという、地方創生の問題だと思います。

最後、市への意見ですが、市がどう腹をくくるか、強いリーダーシップでやっていただきたい。市長一人のリーダーシップでなく行政全体の強い意志を持って頑張っていただきたい。周南市のハード面は県内どこの市よりも優れており、これを有効に生かせないのは外から見ていて非常に残念です。何もせず失敗し衰退するよりも行動するべきだと思います。周南市が今後山口県東部のリーダーとなることを切に願って応援しております。以上です。

●委員

もうすでにたくさんのご意見が出ているところですが、重ねての意見も含めて、私からも少しお話をさせていただきます。まず、最初の公立化のメリットですけれども、私もやはり高等教育機関である大学が地域に存続することの価値、これを担保することは非常に大きなメリットだと思います。もちろん、私立大学を公立化することで単純に解決するものではないと思いますが、公立化することで、地域が運営に関わるという形で大学を残す選択肢が可能となるころは大きいと思います。併せて、大学があることによる地域のシンクタンク機能、これはやはり大きな期待があると思います。現在直面している地域課題の解決、これも重要な役割なのですが、それに加えて、今後地域が新たな夢を描く、そのための政策の形成であったり、知見の提供であったり、こういうところに貢献できる、そういう組織としての大学、これは大きなメリットであろうと思います。その点

では、地域に大学を残す、地域で大学をきちんと維持し育ていく、こういう体制を作っていくところがスタートになるのかと思います。

2つ目、公立化の課題です。メリットを享受するためには、かなり難しい課題をクリアすることが求められるというのが現状の認識であろうかと思っています。直接的には入学者の確保です。18歳人口が減少傾向にある中で、どのような確保戦略を立てるか、これは地域から18歳の皆さんに来てもらうだけでは当然足りなくて、地元以外からどのような形で大学に来ていただけるか、そういう工夫も重要だろうと思います。地域以外からの入学者が増えることで大学の魅力が増すというご指摘がありました。私も大学人としてそう思いますので、このあたりの工夫も課題になろうかと思っています。また、新学部を含む魅力的な教育研究、これを実現するには人材が必要です。人材確保は容易ではないという点は、この会議の中でも何度も指摘が出ていたところですので、ここは大きな課題かと思っています。特に教員や技術専門職員をどのように確保するか。教員も専門職員も大学や研究機関も含めて流動性がありますので、研究環境が魅力的でない、自分が求められていない、自分の力が発揮できないというような判断をすれば、他に移ってしまうということが十分あります。ただ、それは逆に言えば魅力的な教育研究環境があれば、そういう地域があれば、そこに人材が移ってきてくれるポテンシャルもできるわけですから、ここはポジティブな課題として考えておくこともできるかと思っています。また、もう議論として出ましたけど、社会構造変化にどのように対応していくかという課題、これはこの地域だけではなく、全国あるいは全世界的な部分もあろうかと思っています。特に喫緊ではデジタル化の進展にどう対応するか。また、新型コロナ禍によって、社会経済構造が大きく変わっていています。アフターコロナになればさらに変わると思います。これをどのような形で受け止めて公立化に向けていくかというところ、不確実性が高いという点で難しい部分が多いのではないかと思います。もう一つ最後の課題としましては、財源の問題があります。健全な大学運営を継続していくための財源の確保。シミュレーションをいくつか出していただいています。これについては、コロナもありますし、あとは全国的な人口減少であったり、財源不足があったりという状況があります。文科省の政策も不確実性が高いですから、変化をうまく捉えて公立化に向けて舵を取っていけるのか。相応の体制をとることが大切になりますので、難易度が高い課題であると思います。

3の公立化にあたっての市への意見ですけれども、やはり一番重要なのは、新大学のビジョンとコンセプトを明確化して、市民と共有をしていく、そして対話を重ねていくことだろうと思います。私立大学が公立化される場合の大きなメリットは住民参画型の大学運営を実現することができるわけですので、住民との共有は非常に重要だと思います。また、ビジョンとコンセプトだけでなく、ビジョ

ン、コンセプトに基づいてどのような大学を作っていくのか、全般的なキャンパス構想の具体化とも関わってきます。具体化した部分についても、住民と対話を重ねて問題意識の共有をしていただくことが重要だと思います。3つ目ですが、人口減少の進行というのは繰り返し出てきていますが、そうした進行も見据えた市の政策の中での人材と財政の確保はぜひともお願いをしたいと思います。第32次の地制調で議論した時に、人口減少は全国的な傾向であり、多少の濃淡はあるのだけれども、どの地域も20年後かなり大きく人口を減らすとのデータが出ています。各市町村の人口推計は当時のものですから、2018年推計だと思いますが、その時に出されていた数値では、周南市は2014年との比較で最大30%減少するであろうという推計が出ておりました。地域圏では光市も同じくらい減少、下松市も最大10%の減少が20年後に見込まれているデータが出ていました。そのような社会の変化がある中で、それでもなお地域の人材と財源を使って大学を維持していこうとするためには、地域全体の応援が必要になるだろうと思います。しばらくは市から大学へ財政支援をしなければいけない推計が出ています。これは中期的には黒字になりますということでしたが、ある種の出世払いになると思います。出世払いをさせてあげようと市民が思えるためには、信頼関係ができてないとそれは実現し難いですから、市民としっかりしたコンセプトや思想の共有をぜひとも市にお願いをしたいと思います。加えて、公立大学の運営にあたる組織体制の整備もしっかりお願いしたいという点があります。現在もそうですし、これからの時代は大学も評価を受けながら、評価に耐え得るような体制を整備していく必要があります。市が大学に対して評価をするような形、第3者も入れることになるとと思いますが、そういう体制等を作る必要もあります。組織体制の面でも市民と共有する必要があるので、整備方針等も示していただくことになると思います。あわせて、市への意見としては、冒頭申し上げましたように、広域連携の可能性についてもやはりご検討をいただきたいと考えています。地制調で議論しましたが、これから地域を支えていくためには、自治体同士の連携も必要ですし、民間や市民の方々を含めた地域全体の連携、公共私連携についても答申では提言いたしました。こうした地域全体での連携体制の中で、経済・社会のシステムとして生活圏を作っていくというようなトレンドにあります。こうした動きの中で大学というある種地域の資源をどのように考えるかという部分はぜひともご検討をお願いしたいというのが私の意見です。

最後、4つ目です。公立化にあたっての大学への意見です。まだ公立化がどのような形になるのかは決まっていますが、仮に公立化の方に舵を切ることになった場合には、公立化を見据えた円滑な移行対応をしっかり行っていただきたい。具体的には周到に準備をしていただいて、その準備したスケジュールに則って着実な実施をお願いしたいということです。合わせてもう一つお願いしたいのは、適

正かつ財政健全な大学経営をお願いしたい。これは、公立私立関わらず、大学として新時代をしっかりと生き抜いて地域に貢献するためには、持続可能な経営確保が必要になるだろうと思いますので、そうした体制の整備も絶え間なくご尽力をお願いしたいと考えています。

私は地域外からこの場に呼んでいただいていますので、地域の皆さんの思いは共有しつつも、やはり少しクールな目で、やや厳し目に見ていく必要があるだろうと思って発言させていただいてきました。とはいいましても、地域を支える資源である大学を、どのように地域が描いていくのかとても大切なことです。いろいろな議論があることを知っていただいたうえで、市民の皆さんを含めて地域で選んでいただく、ということになるだろうと思いますので、このような形で発言をさせていただきました。これまで事務局には、多くの資料を熱心に作ってくださって、ありがとうございました。以上です。

○会長

ありがとうございました。これで全委員からご発言をいただきました。それで、先ほど、今後、報告書の中の最後の章で、このあたりの意見を盛り込んでいくというご説明がありました。私の方からのお願いとしましては、本日、かなり重要なご指摘とか生かせるアイデア、あるいは提案、提言が多数あったかと思しますので、極力報告書の中に盛り込むような形でお願いしたいと思っております。私の方でもそのあたりは見させていただきたいと思っています。その中で、内容によっては若干皆さんの中でも幅があるものもございました。特に広域連携であるとか、スポーツ推薦であるとか、そのあたりでは一定の幅があったと認識しています。様々なご意見が現状においてこの会議でも出ているというところは残すという方向で考えさせていただきたいと思います。一方で、ある程度この会議でコンセンサスというか、委員の皆さんで共有できたのではないかと思う事項を私の方で4点ほどまとめました。ご批判等あれば言っていただきたいと思います。

まず一つ目はですね、徳山大学という存在につきましては、やはり地域の財産、あるいは資源であるということであります。その点については、委員の皆さんも表現は様々なありましたが、一致できたのではないかと考えています。

2点目です。公立化をするのであれば、それは徳山大学の救済ではなくて、周南市のまちづくりに生かすためであると。そこに関して周南市においては、委員の皆さんもいろんな言葉を使われまして、強い意志、哲学、覚悟、魅力を訴える、ビジョンを共有する、腹を括る、リーダーシップ、様々な言葉が使われたと思うのですが、やはりそういった意思がなければそれは成功しないと、そこは周南市におかれても覚悟が必要なのではないかと思います。

3点目なんですけど、様々な点で将来に関してリスクはあると。リスクの個別の内容はこれまでいろんなご指摘があったと思うので、繰り返しませんけど、少なくとも周南市においては、公立化の最終的な検討にあたっては、それらのリスクをご認識

ただいて、それらを評価されたうえで最終的な決定をなされるべきなのではないかということです。リスクがあるから必ずしも避けるということだけではないと思うのですが、やはりリスクをある程度評価は必要なんじゃないかというふうに思います。それは、様々な観点で皆さんがおっしゃったのではないかと思います。

最後なんですけど、ここも様々な表現を皆さんお使いになりましたが、情報開示、あるいは説明責任、合意形成、対話、信頼関係、様々な言葉の使い方があると思いますが、先ほど行政の方の覚悟という話もありましたが、一方で行政だけで難しい部分もあります。そういう部分については、市民の皆さんと共に考えて、新しい、よい大学を作っていくというところは必要なんじゃないかと考えています。このあたりにつきましては、概ね皆さまコンセンサスがあるんじゃないかと思っています。それを越えた各論の部分については、色々あったと思うので、そこは生かしてさらにご検討いただければと考えています。以上ですが、何か皆さんの方でありますでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございます。以上で全ての議事が終了となりますが、最後に、「その他」として、事務局から連絡事項等をお願いいたします。

3 その他

◇事務局 皆様、大変お疲れさまでした。今回を持ちまして、有識者検討会議を閉じますが、本日いただいたご意見を整理し、報告書に盛り込んでいくにあたって皆様にメールでご確認、校正などをお願いしたいと考えています。また、この報告書のとりまとめにつきましては、最終的には会長一任とさせていただきたいと考えておりますが、いかがでしょうか。ありがとうございます。それでは、報告書のとりまとめにつきましては、会長一任とさせていただき、本年度中に、会長から市長の方への提出をお願いしたいと存じます。事務局からは、以上です。

○会長 以上で、徳山大学公立化有識者検討会議のすべての日程を終了いたしました。初回は9月でしたが、毎月のようにこの会議を重ねてきまして、委員の皆様におかれましては、長期間にわたり、大変お疲れ様でした。コロナ禍ということで、なかなか対面で一堂に会するということはできず難しい状況でしたが、その中でもオンライン技術の活用で充実した議論ができたように感じています。今後、事務局において報告書を作られるということで、今しばらく時間を要しますが、その際は事務局から委員の皆さまに連絡があると思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。私からも会議の運営にご協力いただき、御礼申し上げます。ありがとうございます。それでは、進行を事務局にお返しします。

◇事務局 皆さま大変お疲れさまでした。閉会にあたり、市長の藤井から一言ご挨拶申し上げます。

◇市長 皆さま、こんにちは。周南市長の藤井律子でございます。委員の皆様におかれましては、昨年の9月より、専門的な見地から様々なテーマにおいて活発なご意見を賜り誠にありがとうございました。残念ながら、コロナ禍で周南にお越しただけず、オンラインのみでのご参加となった委員様をはじめ、県外の委員のみなさま、遠方からのご参加、誠にありがとうございました。また、榊原会長様におかれましては、本市にとりまして大変重要なテーマの会議を運営していただき、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。お陰様で非常に有意義な会議となり、徳山大学公立化の妥当性や実現可能性について、貴重なご意見をいただけたものと思います。今後は、当会議の報告書を踏まえ、本日お示しした「大学を生かしたまちづくりの方向性（案）」を具体化し、市民の皆様からのご意見をいただきながら、来年度のなるべく早期に市としての公立化の方向性を決定してまいりたいと考えております。引き続き、徳山大学公立化を含め、本市のまちづくりに、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしく願いいたします。終わりに、委員の皆様方のご健勝とご多幸を記念しまして、私からの挨拶とさせていただきます。本当に長期間にわたりまして、お世話になりました。ありがとうございました。

◇事務局 以上で、「徳山大学公立化有識者検討会議」を閉会いたします。皆さま、ありがとうございました。